

第1回瑞浪市人権施策推進審議会 議事録

日 時：令和2年3月23日（月）午後3時～午後4時

場 所：瑞浪市保健センター3階 大会議室

出席者：〈会長〉藤田敬一、〈副会長〉伊藤雅敏〈委員〉柴田洋子、津毛信代、
大西由美子、小栗好文、小野由美、加知妙子、土本かおり、渡邊 勝、
岩島孝之、可児恵太

1 委嘱式

事務局説明。委嘱状は机上に配付。

2 市長挨拶

本日は大変お忙しい中、「第1回瑞浪市人権施策推進審議会」にご出席いただき感謝申し上げます。

新型コロナウイルスの影響で大変な状況下にあるが、ピークがこの先4～6月にくるのではと心配している。今のところ、東濃5市圏内での発生はないが、本日可児市で1名の感染者があった。市としても対策を講じているが、大切なのは、市民一人ひとりが、手洗いや除菌等に十分気を付けることである。周りの方へもお伝えいただければ、と思う。

現在、瑞浪市では、第6次総合計画の後期5か年計画がスタートしたところである。将来都市像として、「幸せ実感都市 みずなみ」という大きな目標を掲げている。市民のみなさんに「幸せだな」と感じていただけるのは、決して経済的な豊かさだけではなく、心の豊かさが重要である。そして心の豊かさや幸福感は、人権が尊重される世の中が実現してこそ、感じられるものである。「幸せ実感都市 みずなみ」を実現していくために、委員のみなさんから忌憚のないご意見をいただき、すばらしい指針が策定できるよう、ご尽力いただきたい。

3 自己紹介 【資料No.1】

各委員自己紹介

4 会長及び副会長の選出

互選により以下のとおり決定

会長 藤田敬一 氏 / 副会長 伊藤雅敏 氏

5 会長挨拶

「人権」という言葉は、「ヒューマンライツ」の訳語である。人権という熟語はあっても、昭和20年8月15日の終戦までは死んだ言葉となっており、世の中に広がることはなかった。終戦後、すぐにこの言葉が復活したわけではなかったが、昭和21年、初めて女性に選挙権ができ、当時39歳だった私の母も投票所に行き、うれしそうに帰ってきた。あれから75年が経つ。みなさんに覚えておいていただきたいことは、「身近なところから深く感じ、よく考え、自分の言葉で表現する」ということである。天高く舞い上がってはならないと私は深く肝に銘じている。学歴や職種、

肌の色、一切関係ない。こうした人間のありようを軸にして、この瑞浪市が、「いのち生きあう」まちとして、さらに発展していくために尽力したい。

6 諮問

市長から会長へ諮問書を提出

7 議事：以下、事務局より説明

1) 瑞浪市人権施策推進審議会について【資料No.2】

＜質問、意見等なし＞

2) 『第2次瑞浪市人権施策推進指針』の策定について【資料No.3】

- ・基本的には、現在の「瑞浪市人権施策推進指針」と「瑞浪市人権施策推進行動計画（後期）」の考え方を継承するが、「指針」に「行動計画」を内包させた一体型の指針とする。

＜質問、意見等なし＞

3) 「人権に関する市民意識調査報告書」について【資料No.4】

- ・当報告書についての意見・感想を、4月10日までに市役所生活安全課宛封筒に入れ、投函することを依頼。

＜質問、意見等なし＞

4) 「岐阜県人権施策推進指針」等について【資料No.5】

- ・人権教育及び人権啓発の推進に関する法律【資料No.5】

＜質問、意見等なし＞

- ・岐阜県人権施策推進指針＜第三次改訂＞【資料No.6】

＜質問、意見等なし＞

5) その他

○意見等なし

○事務連絡

- ・その他配付資料の説明

「ちょっといい話9」

「マンガで考える身近な人権」

「今、悩みを抱えるあなたへ」（リーフレット）

「デートDVを知ろう」

- ・次回は6月頃開催予定

閉会